

「新定時制単独高校の創設に係るワーキンググループ」

まとめ

平成29年6月

(目次)	
1. はじめに	1
2. 検討の内容	2
(1) 新定時制単独高校の概要と検討課題	2
(2) 新定時制単独高校の求める生徒像, 育てる生徒像について	2
① 求める生徒像	
② 育てる生徒像	
(3) 学年制・単位制, 学期制及び修業年限について	4
① 学年制・単位制	
② 学期制	
③ 修業年限	
(4) 授業時間帯について	5
① 検討の土台	
② 授業時間帯の例示	
(5) 学科, 教育課程, 資格取得等について	6
① 学科	
② 教育課程	
③ 昼間部・夜間部間の変更	
④ 資格取得	
(6) クラス人数, 講座人数について	7
① 一クラスあたりの適正人数	
② 学習における適正人数	
3. 今後の検討課題	8
(1) 通学意欲がありながらも登校できない生徒への対応等について	
(2) 休学・中途退学者に対する学び直しの場の提供について	
(3) きめ細かい指導及び支援体制等について	
(別紙)	
別紙1 …授業時間帯・勤務時間の例示	11
(参考資料)	
参考資料1 …「京都市立定時制単独高校の創設に係る基本構想」	13
参考資料2 …「新定時制単独高校の創設に係るワーキンググループ」委員名簿	15
参考資料3 …「新定時制単独高校の創設に向けたまとめ」概要版	17
参考資料4 …「京都市立定時制単独高校の創設に関する基本方針」	19
参考資料5 …「新定時制単独高校の創設に係るワーキンググループ」まとめ(案)に関する市民意見募集の結果	21

1. はじめに

全国的に、夜間定時制では、勤労青少年の学習の場としての役割が薄れる一方、特別な支援を要する生徒や不登校経験者など、様々な課題を抱える生徒の学習の場としての役割が高まっている。

こうした状況の下、本市においては、伏見工業高校夜間定時制から提出された要望書¹や定時制高校の現状・課題を踏まえ、新定時制単独高校の創設に向けた検討を進めていくこととした基本方針（参考資料4参照）を平成26年7月に策定した。その後、同年10月には「新しい定時制高校創設プロジェクト」²を設置し、3回の有識者会議を含め計8回にわたる協議と市民意見募集を経て、様々な課題を抱える生徒の「学びたい」という意欲に応え、社会に送り出していくことができる柔軟な教育システムの構築を旨とした、「新定時制単独高校の創設に向けたまとめ」（参考資料3参照）を平成27年7月に取りまとめた。

この「まとめ」に基づき、教育委員会では、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制（以下、「両校」という。）がこれまで培ってきた教育活動や機能を結集するため、両校を再編・統合し、「学び直し」を求める生徒や「引きこもり傾向」にある生徒など、様々なニーズに対応できるよう、昼間・夜間2部制の「新定時制単独高校」の創設を目指す「京都市立定時制単独高校の創設に係る基本構想」（以下、「基本構想」という。）（参考資料1参照）を平成27年8月に策定した。

そして、この「基本構想」の下、平成27年9月には、両校及び総合支援学校の管理職や教員、教育委員会事務局職員で構成する「新定時制単独高校の創設に係るワーキンググループ」（以下、「ワーキンググループ」という。）を設置した。本「まとめ」は、ワーキンググループでの全28回にわたる検討状況を集約したものである。

また、本「まとめ」の策定にあたって、平成29年1月から約1ヶ月間にわたり市民意見募集を実施したところ、414件もの貴重な御意見を頂戴した。

その主な御意見に対する本市の考え方については「参考資料5」に掲載させて頂いているが、様々な「困り」を抱える生徒に対して、学び直しの機会を含め、きめ細かな指導及び支援を行う新定時制単独高校への大きな期待と賛同の声を頂戴している。

改めて、新定時制単独高校の有する役割の重要性と責任の大きさを認識し、引き続き、学校現場と教育委員会が一体になって、両校の生徒をはじめ、多くの市民の皆様から頂いた幅広く示唆に富んだ御意見を踏まえ、その早期創設に向け全力を注いでいく。

¹ 平成25年11月、伏見工業高校夜間定時制より「本校夜間定時制は現在の場所で新しい学科を設置し、不登校・発達障害により集団生活に馴染めず全日制高校に行けない生徒が学び直し、社会的に自立していくための夜間定時制高校」の創設を求める要望書がまとめられ、教育委員会に提出された

² 平成26年7月に教育委員会で策定した基本方針に基づき、同年10月に設置した伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制の管理職や教員と教育委員会事務局職員及び外部有識者で構成するプロジェクト

2. 検討の内容

(1) 新定時制単独高校の概要と検討課題

ワーキンググループでは、「基本構想」に示した『新定時制単独高校』の基本理念に基づき、「教育課程・教育内容」、「指導及び支援体制」、「学校規模」を更に具体化するため、以下の課題について検討を行った。

<検討課題>

- ・ 新定時制単独高校の求める生徒像，育てる生徒像について
- ・ 学年制・単位制，学期制及び修業年限について
- ・ 授業時間帯について
- ・ 学科，教育課程，資格取得等について
- ・ クラス人数，講座人数について

なお、検討に際しては、昼間部と夜間部の生徒が集団を通して社会性を身に付けることができるよう、「可能な限り、共通の時間帯に学ぶことのできる時間を確保する」とともに、学校のマネジメント力を強化し、多様化する生徒の課題解決に取り組む上で必要となる組織化された指導及び支援体制の充実を図るため、「新定時制単独高校が一つの学校として、教職員組織が一体となった学校運営を行うこと」を前提とした。そのため、新定時制単独高校の骨格として示した項目2「検討の内容」に掲げる内容は、昼間部・夜間部に共通した事項となっている。

(2) 新定時制単独高校の求める生徒像，育てる生徒像について

① 求める生徒像

<求める生徒像>

様々な「困り」を抱え、義務教育段階や高校において学びのつまずきを経験しながらも、就職や進学を見据え、学習意欲を持って、新定時制単独高校で学習支援や「学び直し」を求める生徒

学びのつまずきの背景には、不登校、発達障害、人間関係、家庭環境・学校環境など様々な要因があり、現在の定時制高校には、そうした要因から生じる「困り」を抱えながら学校生活を送っている生徒が多数在籍している。

こうした状況の下、新定時制単独高校の「求める生徒像」は、生徒本人が学習意欲を有していることを前提として、以下に掲げるような多様な生徒の状況やニーズを踏まえて設定した。

- ・ 義務教育段階における「誤学習」「不足学習」「未学習」によって、基礎的な学力を身に付けることができていない
- ・ 発達障害や心理面の不安などにより特別な支援を必要としている
- ・ 全日制高校の生活リズムや学習内容への適応が難しい
- ・ 他の高校で学習につまずき転学を希望したり、中途退学を経験している
- ・ 中学校卒業後に一旦就労していたが、その後、高校での学びを求めている
- ・ 経済的事情からアルバイトで家計を支えているなど、何らかの理由によって昼間に働きながらも勉学との両立を求めている
- ・ 「引きこもり傾向」にあるなど、通学困難な状況にあるが、学習意欲を持ち、社会との接点を求めている

② 育てる生徒像

<育てる生徒像>

社会生活を送るための基礎的な学力を身に付け、社会の一員として、主体的に行動できる生徒

新定時制単独高校では、「基本構想」のとおり、多様な生徒のニーズにきめ細かく対応するとともに、学校生活を通して社会的自立の基礎を築き、進路希望の実現を図ることが必要である。

そのためには、基礎的な学力を身に付けることはもとより、自己肯定感や自己有用感とともに、社会性や主体性を育み、高めることが必要であり、そうした観点の下、「育てる生徒像」を設定した。

なお、前述の「育てる生徒像」を踏まえ、将来的には自立した主体として社会生活を送ることを前提に、授業や学校行事、地域や社会と関わる教育活動を通じて、生徒が身に付けるべき力と考えられる資質・能力を以下に例示する。

- ・ コミュニケーション力を身に付け、適切な人間関係を築くことができる
- ・ 自己肯定感等を育み、自己実現に向けて努力することができる
- ・ 規範意識を身に付け、学校や社会のルールを遵守することができる
- ・ 他者を理解し、協力して物事に取り組むことができる
- ・ 多面的・多角的な物の見方や論理的な考え方を身に付け、課題解決に取り組むことができる
- ・ 自らの進路目標や生き方を見つけ、その実現に向けて努力することができる

(3) 学年制・単位制，学期制及び修業年限について

① 学年制・単位制

学年制とは学年による教育課程の区分を設け，学年ごとに単位修得を行う制度であり，単位制とは学年による教育課程の区分を設けず，決められた単位を修得すれば卒業が認められる制度である。両制度の主な特徴は以下のとおりである。

<学年制>

- ・ 学びの期間が区切られており，生徒が進級を目標として意識しやすく，段階に応じて学びを進めることができる
- ・ 一定数の集団の下，生徒が周囲の仲間を意識することで，社会性が身に付きやすい

<単位制>

- ・ 生徒の興味・関心や進路希望に応じて，柔軟な科目選択や単位取得ができる

新定時制単独高校では，社会的自立を促し，多様な生徒のニーズに対応できる教育システムを構築するため，**学年制を軸とするが，上記の単位制の特徴を取り入れた機能的な運営ができるよう，教育課程及び教育内容の具体化を図る。**

② 学期制

新定時制単独高校に通学する生徒が学習意欲を高めるうえで，学期毎に明確な目標を設定し，学期の終わりに目標に対する到達度を評価することで，次の学習へのステップを計画的に設定して学習を行うことが効果的と考えられる。

その点で，3学期制は，夏休みや冬休みなどの休業期間前に評価を行うことができるため，評価を基にした指導及び支援体制を休業期間中に構築しやすく，また，2学期制と比較しても，教員が，より短い期間での学習指導・評価を行うことができるため，生徒・保護者が課題を認識する機会が増えるなどのメリットがあることから，様々な「困り」を抱える生徒の実態を踏まえ，**3学期制を軸にした教育課程の検討を行う。**

③ 修業年限

3年間での卒業が可能となる3年制のメリットや，ゆっくりと自分のペースで学ぶことのできる4年制のメリットを踏まえ，新定時制単独高校では**生徒の希望によって，合格後に修業年限を選択**できることを基本とした制度とする。

また，生徒によっては，学校生活を送る中で様々な理由から修業年限の変更を希望する場合も想定されるため，可能な限り柔軟な対応ができるよう，検討を行う。

卒業単位数については学習指導要領に基づき，74単位以上とし，修業年限毎の1日あたりの授業時間数は以下を基本として設定する。

3年制 ⇒ 1日5時間または6時間授業を基本とする。

4年制 ⇒ 1日4時間授業を基本とする。

(4) 授業時間帯について

① 検討の土台

授業時間帯については、一人ひとりの生徒に対してきめ細かく支援することに加えて、生徒が集団の中で幅広い体験をすることで育まれる社会性を大切にすることを念頭に置き、昼間部と夜間部の生徒が可能な限り、共通の時間帯に学ぶことのできる時間を確保することを前提として、以下の条件設定のもとで検討を行った。

<優先度A>

- ・ 昼間部と夜間部の生徒が集団の中で交流・人間関係を構築し、一体感を持って学校生活を送ることができるように、給食時間は共通の時間帯を確保する
- ・ 「困り」を抱える生徒が多数在籍することが想定されるため、始業前に、教職員間の意思疎通を図る毎日の打合せ時間を確保するほか、職員会議やケース会議³など様々な会議を行う時間を確保する
- ・ 生徒への連絡の場だけでなく、クラスのまとめりや人間関係形成を促す時間として、「ショートホームルーム」を導入する
- ・ 夜間部の生徒は昼間に働くことができる

<優先度B>

- ・ 1コマあたりの授業時間は45分を基本として検討する。また、年間標準時数35週を考慮する中で、長期休業期間の削減などを検討する
- ・ 夜間部の終業後に、生徒指導や部活動指導の時間を1時間程度確保する
- ・ 休み時間は5分間を前提とするが、時間的余裕のある場合には10分間確保する
- ・ 就労などにより、夜間部の生徒の中で17時30分までに給食を取ることができない生徒が喫食できるよう、共通の時間帯に加えて、昼間部の終業後にも給食時間を設定する
- ・ 生徒会活動の時間は昼間部・夜間部に共通の給食時間を活用する

³ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどと協働し、個々の生徒への支援を個別に検討する会議

② 授業時間帯の例示（別紙1参照）

上記①を踏まえると、授業時間帯・勤務時間の例示は別紙1のとおり考えられ、以下に、主な特徴を列挙する。

- ・ 給食時間は2回とし、それぞれ20分ずつ確保する
- ・ 教職員の勤務時間を13時25分～21時55分と仮定し、始業前に毎日15分の打合せ時間を確保する
- ・ 1限（13時45分～14時30分）の時間帯は、週1日を授業、週4日を職員会議やケース会議などの会議時間として設定する
- ・ 夜間部終業後の部活動や補習の時間を50分間確保する
- ・ 2限（14時35分～15時20分）と3限（15時30分～16時15分）の間の休み時間を10分間確保する
- ・ 夜間部4年制の始業を17時25分とする
- ・ 生徒会活動の時間は、17時05分～17時25分の時間を利用する
- ・ 職員の休憩時間は、給食時間を中心として割り振りを行う

なお、今後、教育課程及び会議や部活動の優先度、修業年限の変更などを考慮し、具体的な学校運営形態を検討する必要がある。その結果、教職員組織の一体的運営が難しいと判断した場合は、教職員間の連携及び勤務条件等も視野に入れながら、改めて勤務体制を検討する。

（5）学科，教育課程，資格取得等について

① 学科

「基本構想」を踏まえ、生徒の多様な進路希望に応えるため、普通科とする。

② 教育課程

昼間部・夜間部で、「求める生徒像」「育てる生徒像」を共通とすることや、以下の項目（5）の③のとおり、昼間部・夜間部間の変更を認める方向であることから、昼間部・夜間部の教育課程は同一とする。

また、教育課程は普通科目を中心として構成し、基礎的な学力の定着を図るとともに、生徒の興味・関心を引き出し、能力の伸長を目指す授業とするなど工夫を図る。さらに、多面的・多角的な物の見方や論理的な考え方、コミュニケーション力を身に付け、課題解決力や職業観・倫理観を養うことを狙いとした専門的な科目の設置も検討する。

なお、「基本構想」に基づき、募集定員を両校の合計である80名程度とした場合、これ以上学年集団を細分化することは、学びの集団規模が小さくなりすぎるため、専門系のコース制ではなく、学習到達目標を明確にした選択科目により、多様なニーズに応えるとともに、学びへの興味や関心を喚起して進路保障につなげる。あわせて、生徒の特性や個性を踏まえ、その能力の伸長を図ることと進路希望の実現という2つの観点から、履修登録に関する事前指導を丁寧に行う。

③ 昼間部・夜間部間の変更

昼間部・夜間部の変更については、当該生徒の様々な状況や入学後の家庭状況の変化を勘案し、配慮の必要な事情がある場合に限り、一定の条件の下、認めることとする。

④ 資格取得

資格取得の目的は、学びの動機付けや自己肯定感等を持たせることを第一とする。その上で、生徒が意欲的に取り組むための手段として、社会生活を送る上で必要となる基礎的な知識や技術を身に付けることができる資格や就職につながる資格などの中から、日々の教育活動の中で取得可能な資格を設定する。

資格取得の取組と授業の関連については、資格の種類や、その教育効果も視野に入れながら、引き続き、検討を行う。

(6) クラス人数、講座人数について

① 一クラスあたりの適正人数

生徒が将来的に社会生活を円滑に送るためには、一人ひとりの生徒が自分のペースで学ぶだけではなく、集団の中での学習や活動を通して、社会性や主体性を育むことも重要であり、そのためには一クラスあたり一定数の人数が必要であると考えられる。

ただし、「困り」を抱える生徒が増加している中で、クラス人数が多くなると一人ひとりの生徒に目が行き届きにくいといった懸念がある。

一方、クラス人数が少ないと、教職員の目は行き届くが、孤立する生徒が生じやすくなるほか、特別活動を行う上で支障が生じることなどが考えられる。

加えて、次期学習指導要領の重要なポイントの一つである「主体的・対話的で深い学びの実現」の視点で学習活動を考えた場合には、一定の集団が必要となることも想定される。

そのため、学級規模は20名を基本とするが、卒業後の進路によっては、より大きな集団の中で生活することも想定されることから、上級学年では25名程度を学級規模の上限とすることも今後検討する。

なお、募集定員の設定や、原級留置などで同じ学年をやり直す生徒の人数によっては、クラス人数の設定を変更する必要があるため、上記事項はあくまで基本的な考え方に留める。

② 学習における適正人数

新定時制単独高校では、クラス内の学力差が非常に大きいことや、生徒によって抱える背景や「困り」が様々であることが想定されるため、特に積み上げの必要な教科（国語・数学・英語）については、必要に応じて10名程度の習熟度別講座とするなど、きめ細かい指導体制を確立する。

ただし、グループ活動や協働的な学習や体育など、大きな集団で学習することで教育効果が向上する教科・科目もある。その場合は、少人数講座ではなく、チームティーチングを含め、クラス単位や合同の人数で対応することも検討する。

3. 今後の検討課題

(1) 通学意欲がありながらも登校できない生徒への対応等について

「基本構想」のとおり、新定時制単独高校では、学習意欲がありながらも登校できない「引きこもり傾向」にある生徒に対して、ICT 環境を利用した学習支援を行い、一人ひとりに応じたきめ細かい指導や支援が求められており、通学を基本としない通信制課程による学習形態は一定の効果を発揮することが期待できると考えられる。

しかしながら、「引きこもり傾向」からの脱却を図り、社会性を身に付けるためには、学校の中で仲間とともに学習するなど、集団生活の素晴らしさを学べる機会を段階的に確保することが大切である。

このため、新定時制単独高校では、「引きこもり傾向」からの脱却と、「最終的に定時制で卒業する」ことを前提とした制度設計が望ましいと考えられる。

その実現に向けては、通信制課程⁴の活用のほか、「不登校生徒に対する特例制度」⁵や、「高等学校における遠隔教育」⁶など、定時制課程内で通信教育や多様なメディアを高度に利用した制度の活用が考えられる。

「引きこもり傾向」からの脱却に向けた効果的な学習支援の方法について、文部科学省とも協議を行いつつ、引き続き、幅広い観点から検討を行う。

(2) 休学・中途退学者に対する学び直しの場の提供について

「学び直し」を求める生徒には、高校入学後に何らかの理由によって居場所を見つけられず長期欠席・休学・中途退学を経験した生徒も想定される。

これらの生徒の中には、自らの進路希望の実現に向けて、一日も早い「学び直し」を希望する生徒も存在するが、現在、公立高校がこうしたニーズへの対応を十分に行っているとは言えない状況にある。

こうした状況を踏まえ、新定時制単独高校では、一日も早い「学び直し」の場を提供するため、長期欠席・休学・中途退学を経験した生徒などを対象とした、年度途中からの生徒受入の方策について検討する。

なお、検討に際しては、教育相談の充実、保護者との密接な連携や学習の接続など、様々な観点が求められる。

⁴ 自宅での添削指導（レポート学習）を中心に、面接指導（スクーリング）及び試験の方法などを通じて単位修得する制度

⁵ 全日制及び定時制課程において、学校生活への適応が困難であるため、相当の期間高等学校を欠席していると認められる生徒を対象に、通信の方法を用いた教育により、一定の範囲内（最大 36 単位）において単位認定を行うことができる制度
【参考】高等学校の全日制課程及び定時制課程における不登校生徒に対する通信の方法を用いた教育による単位認定について（平成 21 年 3 月 31 日付 20 文科初第 8077 号文部科学省初等中等教育局長通知）

⁶ 多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる授業のことを言い、最大 36 単位まで認められる。通信衛星、光ファイバ等を用いることにより、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもので、同時かつ双方向的に行われるものであることが求められる。また、療養中や障害のため通学できない生徒については、通信の方法を用いたオンデマンド型（最大 36 単位）も認められている
【参考】学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の施行について（平成 27 年 4 月 24 日付 27 文科初第 289 号文部科学省初等中等教育局長通知）

(3) きめ細かい指導及び支援体制等について

新定時制単独高校で「基本構想」に掲げた理念を実現するためには、引き続き、基礎的な学力の定着に向けた「学び直し」の取組や指導及び支援体制をはじめ、医療や福祉などの外部機関、また進路保障や生徒のキャリア意識向上に繋がる企業・大学等との連携、午前中の活用のあり方、不登校を経験した生徒の学びの場である洛風中学校や洛友中学校との連携・接続のほか、入学後の不適應を防ぐための中学校との連携やきめ細かな入学相談、新たな公立高校入学者選抜の方法などの検討が必要である。

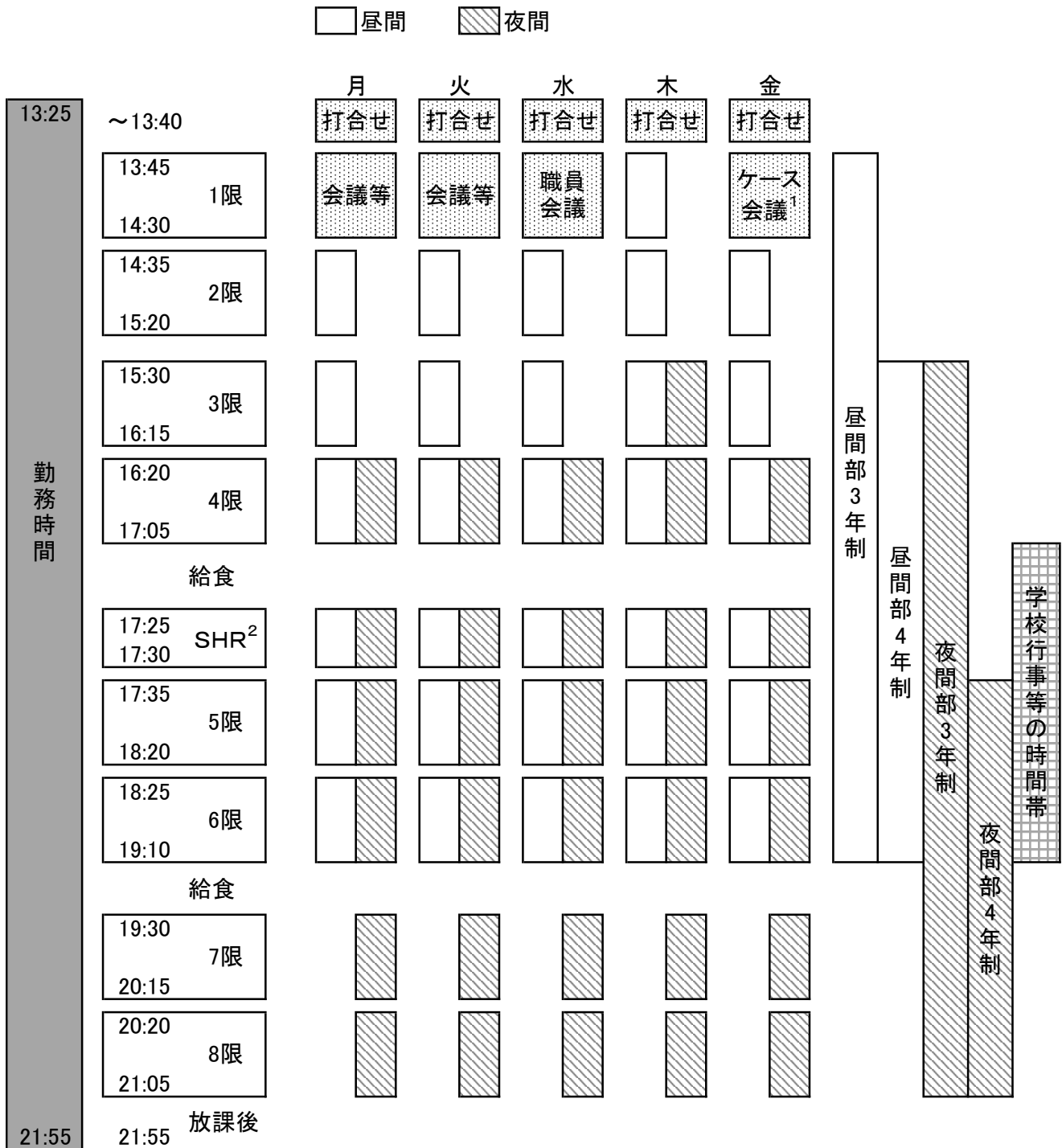
とりわけ、新定時制単独高校においては、様々な「困り」を抱えた生徒に対する指導及び支援体制の確立が何より重要であるとの認識の下、両校がこれまで培ってきた生徒にきめ細かく対応し、保護者と協働することを基盤とした教育実践及び文部科学省事業の調査研究校として取り組んできた「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」⁷や「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」⁸の研究内容を継承・発展させることが非常に重要である。

さらに、「困り」を抱える生徒への指導及び支援に関する専門性や豊富な経験のある教職員をはじめ、熱意と意欲あふれる教職員、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、総合育成支援教育に関するアドバイザー、キャリアアドバイザーなどを配置し、各分野の専門家と協働しながら、関係機関と緊密な連携を図り、一人ひとりの生徒のニーズに応じた支援や配慮を実現できる組織体制の確立に向けた、人的措置の検討が必要である。

⁷ 伏見工業高校夜間定時制では、教職員が発達障害等の特性についての理解を深め、生徒の学びと理解を促す教材や授業展開、指導方法等の工夫改善とともに、早期の個別支援のあり方を調査研究する、「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」に取り組んだ（平成26年度～平成27年度）

⁸ 西京高校夜間定時制では、専門的知識や経験を有するスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーと協働し、個々の生徒のニーズに応じた支援を可能とする校内体制作りを目指し、「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」に関する調査研究に取り組んでいる（平成28年度～）

授業時間帯・勤務時間の例示



¹ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどと協働し、個々の生徒への支援を個別に検討する会議

² 「ショートホームルーム」

京都市立定時制単独高校の創設に係る基本構想（平成27年8月策定）

京都市立定時制単独高校（以下「新定時制単独高校」という。）の創設に当たり、「新しい定時制高校創設プロジェクト」において、3回の有識者会議を含め計8回の協議と、平成27年3月23日から約1ヶ月間実施した市民意見募集の結果を踏まえて取りまとめられた「新定時制単独高校の創設に向けたまとめ」に基づき、次の基本構想の下、「新定時制単独高校」の創設に向けた検討を進める。

1 「新定時制単独高校」の基本理念

- (1) 不登校経験のある生徒や発達障害等により特別な支援を必要とする生徒など、多様な学びの動機や学習歴を有する「学び直し」を求める生徒や、高校進学を望みながらも、通学が困難な「引きこもり傾向」にある生徒の学習保障を行い、基礎学力の定着・向上を図るとともに、社会性やコミュニケーション力を育むことで、社会的自立の基礎を築き、進路希望の実現を目指す。
- (2) 生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導や支援体制を確立し、生徒が「この学校で学べて本当によかった」、「この学校があって本当によかった」と実感できる教育環境を実現する。
- (3) 勤労青年が働きながら夜間に授業を受けるという従来の夜間定時制は、現在、その実態が大きく変容していることを踏まえ、本来的に昼間に学びたいという高いニーズに応えるとともに、経済的な理由や心理面の不安など様々な事情から夜間にしか通学できない生徒のニーズにも対応できるよう、昼間・夜間2部制の教育課程を編成する。

2 「新定時制単独高校」創設に向けた基本方針

「新定時制単独高校」においては、上記「1」に掲げた基本理念の下、よりきめ細かい指導と専門性のある支援体制の確立が求められており、そのためには、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制（以下「両校」という。）がこれまで培ってきた教育力を結集させ、さらに発展させていくことが必要である。

しかしながら、市民意見でも指摘されているとおり、今後も中学校の生徒数が減少傾向にあること、夜間定時制課程における高等学校入学者選抜で相当数の欠員が生じていること、及び財政負担の観点などから、京都市立高校において、両校に加え、「新定時制単独高校」を設置して3校体制とすることは困難であり、「新定時制単独高校」については、両校を再編・統合し、京都市立で初の定時制単独高校として創設する。

なお、平成29年度には伏見工業高校全日制の生徒は3年生のみとなり、京都工学院高校で学習を行うこととなることから、同校の敷地の活用が可能となる。このため、平成29年度から施設整備に着手し、早ければ平成31年度に「新定時制単独高校」の開校を目指す。

3 教育課程・教育内容

- (1) 生徒の多様な進路希望に応えるため、特定の分野の学習を行う専門学科ではなく、普通科を基本とする。進学を希望する生徒に対しては、少人数教育等によるきめ細かい指導で進路保障を図るとともに、就職を希望する生徒に対しては、進路希望の実現と学習意欲の向上を図る視点から、資格取得も視野に入れ、専門性の高い科目として、工業・商業・情報などを教育課程に設置する。
- (2) 修業年限については、3年間での卒業が可能となるなどの3年制のメリットやゆつくりと自分のペースで学ぶことができる4年制のメリット等を踏まえ、3年制と4年制を柔軟に選択できる制度とする。
- (3) ICT環境を利用した学習支援を視野に入れた通信制の併設を目指し、通学意欲がありながらも登校できない生徒への学習保障のあり方について検討する。

4 指導及び支援体制

- (1) 幅広い年齢層の教員をはじめ、発達障害等により特別な支援を必要とする生徒への指導に関する専門性と豊富な経験のある人材など、「熱意と意欲を持った教職員」を配置する。
- (2) 総合育成支援教育に関するアドバイザーやスクールカウンセラーのほか、スクールソーシャルワーカー及びキャリアコンサルタントなどの専門家と連携を図り、一人ひとりの生徒にきめ細かい支援を行う体制を確立する。

5 学校規模

- (1) 募集定員については、中学校の生徒数推移及び両校の現状を踏まえ、平成27年度入学者選抜における両校の募集定員の合計である80名程度を基本とし、通信制については、京都市立中学校で実施しているICT機器を活用した「はーとあくせす事業」※の利用実態も参考にして検討する。

※学校に行きたくても行けない中学生を対象に、オンライン学習ソフトを活用した学習支援事業

- (2) 生徒の学習及び進路希望等を十分に保障するため、15～20名程度を標準とした、きめ細かい少人数教育を展開するなど、柔軟な教育システムを検討する。

6 今後の検討の進め方

両校の教職員及び教育委員会の職員等で構成する「ワーキンググループ」を設置し、教育課程や教育内容、募集定員、支援体制をはじめ、「新定時制単独高校」の具体化を図る。

「京都市立定時制単独高校の創設に係るワーキンググループ」（平成27年9月設置）

委 員

氏 名	役 職 等
西田 秀行	京都市立伏見工業高等学校夜間定時制学校長
竹田 昌弘	京都市立西京高等学校夜間定時制学校長
田中 克典	京都市立伏見工業高等学校夜間定時制副校長
鳥羽 恵美子	京都市立西京高等学校夜間定時制副校長
辻浦 厚	京都市立伏見工業高等学校夜間定時制教諭
山本 正廣	京都市立伏見工業高等学校夜間定時制教諭
佐倉 隆児	京都市立西京高等学校夜間定時制教諭
中塚 洋	京都市立西京高等学校夜間定時制教諭
松田 実	京都市立白河総合支援学校長
長谷川 智広	京都市教育相談総合センター担当課長補佐
村上 英明	京都市教育委員会指導部学校指導課参与
山本 雅幸	京都市教育委員会指導部学校指導課首席指導主事
三宅 慎一	京都市教育委員会指導部学校指導課担当課長
吉武 謙一	京都市教育委員会指導部学校指導課担当係長
谷口 衛	京都市教育委員会指導部学校指導課指導主事
渡久知 淳二	京都市教育委員会指導部学校指導課指導主事

「京都市立定時制単独高校の創設に係るワーキンググループ」

指導助言者（外部有識者）

氏 名	役 職 等
竹田 契一	大阪教育大学名誉教授・大阪医科大学 LD センター顧問
宇都宮 誠	学校法人生野学園 理事長・生野学園中学・高等学校 学園長
水野 篤夫	公益財団法人京都市ユースサービス協会常務理事・事業部長
伊藤 一雄	高野山大学名誉教授・関西福祉科学大学名誉教授
前田 敏也	市立中学校長会進路部会長・市立洛南中学校長

（敬称略，順不同）

平成28年4月1日現在

「新定時制単独高校の創設に向けたまとめ」概要版（平成27年7月策定）

I はじめに

- 伏見工業高校と西京高校の夜間定時制では、勤労青年の就学機会を提供する場としての役割が薄れ、一方で不登校経験がある生徒や特別な支援が必要な生徒など、多様な学びの動機や学習歴を有する生徒が増加。
- 教育委員会は、伏見工業高校夜間定時制からの要望や定時制高校の現状・課題を踏まえ、市立定時制単独高校の創設に向けた基本方針を平成26年7月に決定。
- 両校の管理職や教職員と教育委員会の職員で構成するプロジェクトを同年10月に設置、学識経験者や中学校現場等の参画も得ながら議論を展開。
- また、市民意見募集でいただいた御意見からは新設校に対する大きな期待が寄せられており、そうした御意見及びプロジェクトにおける議論を集約した「まとめ」を基に、新設校のあり方の更なる具体化を図っていく。

II 市立定時制高校の現状と課題**(1) 生徒の状況**

- ・中学校時代に不登校経験のある生徒は入学者のおよそ5～6割程度、発達障害等による特別な支援を必要とする生徒も在籍者の1～2割程度と様々な背景や困りを持つ生徒が在籍。
- ・経済的理由はもとより、生活習慣の確立を図る意味で学校の指導の下、およそ7～8割程度の生徒がアルバイトを行い、伏見工業高校夜間定時制ではほぼ全員が就職、西京高校夜間定時制ではおよそ4割の生徒が進学、1割の生徒が就職。

(2) 学校を取り巻く状況

- ・伏見工業高校夜間定時制は工業の専門学科で単位制の「工業技術科」、西京高校夜間定時制は学年制の「普通科」を設置し、1学年あたりそれぞれ30名と50名を募集。
- ・少人数教育によるきめ細かい指導を行うとともに、工業系や情報・商業系の資格取得も促進。
- ・西京高校夜間定時制は専用校舎を有し、伏見工業高校夜間定時制は工業高校再編・統合に伴って、平成29年4月以降に校舎等を単独使用できる状況。
- ・両校では教職員の平均年齢は高く、今後は若手教員をはじめ、幅広い年齢層の教員を配置するとともに、総合育成支援教育の充実に向け、総合支援学校と人事交流を行うなど「熱意と意欲を持った教職員」を配置し、学校組織を活性化させることが必要。

III 新設校の基本的な枠組み**(1) 求められる役割**

従来の両校が保障してきたように、不登校を経験したり、発達障害等により特別な支援を必要とするなど、もう一度学び直したいと思う生徒、小さな集団の中であれば学校生活を送ることができる生徒、家庭の経済状況などの理由でアルバイトをしながら勉強をしたい生徒のニーズに応えていくことが必要。

(2) 新たな教育ニーズへの対応

- ・全国的に公立高校として「引きこもり傾向」にある生徒の教育保障が不十分。
- ・従来の公立高校にはない、ICT環境を活用した学習支援なども視野に入れた新しいタイプの通信制の併設などについて、今後、その実施方法や通学圏も含めた検討を進めていく。
- ・不登校の中学生を対象とした洛風中学校や洛友中学校の生徒の進路保障に向けた連携・接続のあり方もこの機会に検討する。
- ・生徒の進路に対する意欲を高めるための教育相談を中学校と新設校間で複数回実施するようなシステムなど、従来の公立高校入学者選抜の制度の枠を越える新しい選考方法も検討。

(3) 学習保障に向けた少人数教育、きめ細かい指導のあり方

- ・現在の両校の実情では15～20名程度の少人数の講座が理想的。学力差が大きな科目や実習系科目は1講座10名以下で展開することが必要となる場面があることも考慮し、新設校の指導体制を検討することが必要。
- ・ただし、生徒が社会生活を円滑に送れるよう、集団規模を適宜見直していくことが重要。
- ・新設校では伏見工業高校夜間定時制が国の指定で研究している「個別の指導計画」をすべての生徒に積極的に活用していくことが重要。
- ・伏見工業高校夜間定時制に現在配置する総合育成支援教育に関するアドバイザーやスクールカウンセラーといった専門職員の配置をより充実させることが重要。

(4) 時間帯のあり方

- ・中学校現場の声や今春開校した「府立清明高校」の定員を大きく上回る志願状況を見ても、本来的に昼間に学びたいという生徒たちのニーズは極めて高い。
- ・経済的な理由や心理面の不安など、生徒たちがアルバイトと両立しながら夜間定時制へ通学・卒業していることも考慮し、夜間に学習保障を行うシステムは維持することが必要。
- ・昼間や夜間に学ぶ生徒たちの定員規模や実際の授業時間帯は、引き続き両校及び教育委員会で具体的な検討を継続する。

(5) 修業年限や単位認定等のあり方

- ・新設校の昼間に学ぶ生徒たちは3年制を基本に、ゆっくりと学びを求める生徒は4年制も選択可、夜間に学ぶ生徒たちは4年制を基本に希望があれば3年での卒業を選択可とすることが望ましい。
- ・また、定時制で学ぶ生徒たちにホームルームを意識させたり、人間関係を構築して連帯感を持たせるなどの観点から学年制が望ましいが、多様なニーズに対応するため、単位制の活用も検討。

(6) 外部の教育力も視野に入れたキャリア教育のあり方

- ・両校の従来の取組を踏まえた場合、新設校においても工業・商業・情報等の専門性の高い科目を教育課程に取り込むとともに、資格取得やアルバイトについては生徒のキャリア意識の向上のために取組を継承していくことが必要。
- ・新設校においては多様化する生徒たちの卒業後の支援体制も視野に入れて、これまで以上に様々な関係機関と連携を強化し、力を合わせていくことが重要。

IV 学校規模や教育施設のあり方

- 新設校の学級規模は、生徒たちの学習保障をしっかりと行うための環境としては20人学級を標準とすることが理想的。
- 体育祭・文化祭、球技大会の学校行事や部活動など、集団生活の素晴らしさを学べる学校規模の確保と環境づくりを重視していくことも大切な視点。そのため、新設校でも充実した教育活動を展開するため、一定数の集団を確保することが必要。
- 新設校は、時間的・空間的に必要な時に校舎や施設を自由に使用できる環境が用意されることを前提に、十分なカウンセリングルームの確保、資格取得の学習のために必要となる教室、さらには生徒と教員のオンデマンドシステムを前提としたICT環境の整備等が求められるなど、従来の全日制高校とは異なる視点から教育施設の整備が必要。

V むすびに

この「まとめ」は新設校の教育構想の骨格であり、今後これを指針として学校現場と教育委員会が一体となり、「この学校で学べてよかった」「この学校があってよかった」と実感できる新設校を実現するためにさらなる具体化を図っていく。

とりわけ市民意見募集では、両校が培ってきた教育活動や機能を結集し、更なる充実を早期に図ることが求められるとともに、生徒数減少や財政負担の観点など、両校の再編・統合についても御意見をいただいております。市立定時制高校全体のあり方について今後、検討を進めることが重要。

京都市立定時制単独高校の創設に関する基本方針（平成26年7月策定）

京都市立定時制単独高校（以下、定時制単独校）の創設に向け、下記の基本方針の下、教育内容や施設設備等の在り方について検討を進める。

記

1 夜間定時制高校の現状と定時制単独校の創設に向けた方向性

全国的に全日制高校への進学者が増加する中で、夜間定時制高校は勤労青年の就学機会を提供する場としての役割が薄れ、一方で不登校経験や特別な支援が必要な生徒をはじめ、多様な学びの動機や学習歴を有する生徒たちが増加してきている。

また、本市立夜間定時制高校においても、このような状況は同様であり、これまでから、少人数教育はもとより、通常の4年ではなく全日制と同様に3年間での卒業を可能とした3修制の導入や、特別支援に関する専門的知識を有する教員の配置といった様々な改革を進めている。

こうした中、さらに生徒たちの多様な状況やニーズにきめ細かく応えられるよう、学び直しや自立支援等の機能を充実させた新たな教育内容や学校体制及びそれらを実現する施設設備を備えた新設校の設置を目指す。

2 教育内容等に関する検討の観点

- (1) 不登校経験や、発達障害等の特別な支援を必要とする又はその可能性のある生徒の学力保障と進路保障に向けた指導の在り方
- (2) 将来を見据えた生活習慣の確立、資格取得の在り方、進路指導、キャリア教育の充実に向けた外部の専門機関との連携の在り方
- (3) (1)及び(2)を円滑に実施するための教育課程、単位取得、授業時間帯や修学年限等の在り方
- (4) (1)及び(2)を円滑に実施するための人員配置、学校体制の在り方

3 整備地・施設設備等

洛陽工業・伏見工業高校の再編・統合により活用可能となる伏見工業高校の敷地の一部を定時制単独校の整備地とし、施設設備においては、既存の呉竹館（平成21年3月竣工）の活用も含めた整備の在り方を検討する。

なお、伏見工業高校夜間定時制は、平成28年4月開校予定の新しい工業高校へは移転せず、現在地において教育活動を継続することとする。

4 検討の進め方

- (1) 本市立夜間定時制高校の教職員及び教育委員会の職員で構成するプロジェクトを設置し、検討を進める。
- (2) 検討の過程においては、必要に応じて学識経験者や中学校現場等の参画を得る

「『新定時制単独高校の創設に係るワーキンググループ』」まとめ（案）」
 に関する市民意見募集の結果について

1. 市民意見募集の概要

- (1) 募集期間 平成29年1月10日（火）～2月13日（月）
 (2) 提出方法 郵送・FAX・WEB（ホームページ）への入力
 (3) 配付場所 市役所・区役所支所・教育施設等へのチラシ配架
 市立中学校及び両定時制高校の生徒・保護者への案内周知，WEBへの掲載

2. 応募結果

応募者数 310名 ※うち、両定時制高校の生徒104名

(年齢別)

年齢	応募者数（名）	
20歳代未満	85	27%
20歳代	42	14%
30歳代	27	9%
40歳代	49	16%
50歳代	42	14%
60歳代	18	6%
70歳代以上	1	0%
不明	46	15%
合計	310	100%

(性別)

性別	応募者数（名）	
男性	183	59%
女性	102	33%
不明	25	8%
合計	310	100%

(居住地別)

居住地	応募者数（名）	
京都市内	169	55%
京都市外	19	6%
不明	122	39%
合計	310	100%

3. 御意見の内訳

意見数 414件

(項目別)

意見区分	意見数（件）
新定時制単独高校への期待	68
新定時制単独高校の教育内容	36
求める生徒像・育てる生徒像	10
学年制・単位制，学期制及び修業年限	14
授業時間帯	51
学科，教育課程，資格取得等	22
クラス人数，講座人数	11
「引きこもり傾向」にある生徒への対応等	17
休学・中途退学者に対する学び直しの場の提供	5
指導及び支援体制	31
外部機関や中学校との連携，公立高校入学者選抜等	37
教職員体制	30
施設設備のあり方	52
両校が培ってきた教育実践等	10
その他	20
合計	414

4. 主な御意見（要旨）

別紙のとおり。

1 新定時制単独高校への期待（68件）

（別紙）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
「困り」が多様化し、支援が必要な生徒や学校に馴染めない生徒、不登校生徒が増加している中、「まとめ（案）」に掲げられたような学校のニーズは高いと思う。公教育の場である公立高校が、こうした時代のニーズに応え、学び直しをはじめとする様々な実践を行うことは、本当の意味での教育の機会均等を実現することになる。生徒が頑張ろうと思えるような学校を早期に創設してほしい。	20	様々な「困り」を抱える生徒の学びの場として、多様な課題に向き合うとともに、きめ細かな指導及び支援体制を構築する新定時制単独高校の創設に大きな期待を頂戴し、その役割の重要性と責任の大きさを改めて認識しております。 とりわけ、御意見にありますように様々な背景を持った生徒が増加している中で、新定時制単独高校には学び直しを求める生徒や高校で学習することを望みながらも通学が困難な「引きこもり傾向」にある生徒など、多様化する生徒のニーズにきめ細かく応えることが強く求められていると認識しております。 引き続き、「一人ひとりの子どもを徹底的に大切にする」との本市教育理念の下、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制の教育力を結集するとともに、多様な生徒状況を踏まえ、基礎的な学力の定着や社会的自立に向けた支援を行うことのできる教育システムのあり方について、学校現場と教育委員会が一体となり、幅広い観点からの検討を進め、新定時制単独高校の早期創設を目指してまいります。
設立の趣旨に賛同。義務教育9年間でつまづきを経験した生徒が、社会生活を送るために支援を受けながら学び直しを行うコンセプトは素晴らしい。多様な課題と向き合うことになると思うが、一人ひとりの生徒を大切に、生徒が社会的に幅広い経験を積めるような教育に大いに期待する。実現に向けた制度づくりに一層尽力いただきたい。	15	
多様な課題を抱える生徒が、しっかり学び直すとともに、「引きこもり傾向」にある生徒の教育保障を目指す新定時制単独高校の創設は、全国をリードして公教育のあるべき姿を目指す市立高校ならではの。生徒が落ち着いて学習でき、楽しく過ごせるような環境を期待する。「自分はここにいていいんだ」と実感してもらえる学校を作っていただきたい。学校は人間の心を育てる場であり、人と人との信頼関係を築く場所であるという認識が必要。	12	
引きこもりや未学習による学力課題の対応など、府立清明高校とは異なるコンセプトの新定時制単独高校に期待。	1	
様々な「困り」を抱える生徒がいる中、新定時制単独高校が創設されることは、希望ある試み。自らの生活スタイルに合わせて学び直しを求める生徒にとって、進路選択の幅も広がり、新たな選択肢として大きく期待できる。	8	
新定時制単独高校は、家庭環境が苦しいものの、学習意欲を持っている生徒にとって必要なシステム。進路選択をする上で、経済的に厳しい家庭にとっては、公立の定時制に対する期待が大きい。	2	
様々な背景を持った生徒が増えていると思う。府立清明高校が市内北部にあるので、市内南部に設置することは有意義なこと。市内南部の生徒が入学できる学校にしてほしい。	3	
高校卒業後の進路まで展望が持てるような定時制高校があれば良い。	1	
病気や障害に対して理解のある学校にしてほしい。また、いじめや虐待により傷ついた生徒は一定期間パワーを充電させる必要があり、そうした生徒の社会復帰を見守る学校であってほしい。	2	
定時制だけの学校ができるのは良いことだと思う。	2	
現在の定時制のような学校にしてほしい。	2	

2 新定時制単独高校の教育内容（36件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
生徒が実りある高校生活を送るため、基礎学力を一定付けた上で卒業させることが一番大切であり、そのための環境を整えるべき。 授業やホームルーム活動、学校行事などを通じて、社会に出た後に自立できる力や教養をはじめ、「まとめ(案)」に掲げるような身に付けるべき力を育成してほしい。	5	生徒が学校生活を通して社会的自立の基礎を築き、進路希望の実現を図るためには、一定の基礎的な学力を身に付け、社会性や主体性を育むことが重要であると考えております。 今後は、御意見にもありますように、生徒が実りある学校生活を送ることができるよう、教育活動を通じて身に付けるべき力の具体化に向けた検討を進めてまいります。
「育てる生徒像」に例示された生徒を育成するための具体的な検討内容があれば教えていただきたい。個別対応や療育的対応が必要となるケースも想定されるが、そうした対応が実現可能となる環境が整えられるのか。将来的な目標として見据えるのは良いが、基礎的な社会性の土台をしっかりと育み、積み上げることのできる環境を希望する。学力的な学び直しも必要だが、社会性の学び直しこそ優先すべき課題。	1	
様々な「困り」を抱えた生徒が、個々のペースに応じて意欲的に学び、学ぶ意義や喜びを実感できる授業実践を望む。また、学びの中で身に付けた知識や技術を生かして、社会や地域に貢献できる取組を実践してほしい。 生徒の心の寄り所になるような学校になれば。	3	
勉強にしっかり取り組むことのできる高校。補習は放課後のほうが良い。定期的な席替えなど、リフレッシュも大事。	5	

2 新定時制単独高校の教育内容（続き）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
学び直しを必要とする生徒や様々な「困り」を抱える生徒にとって大切なのは、「自分が必要とされている」、「自分の存在を認めてもらえる」と実感することであり、生徒たちの自己有用感を育む教育システムや仕掛けが重要。	1	<p>新定時制単独高校においても、自己肯定感や自己有用感を育む教育活動を検討することが必要であり、そうした観点の下、学び直しの取組をはじめ、教育内容の具体化に向けた検討を進めてまいります。</p> <p>部活動や学校行事をはじめ、学校生活を通して、他者と協力して物事に取り組むことは、社会性や主体性を育む貴重な機会になると認識しております。</p> <p>一方、集団生活に馴染めない生徒の心理的な負担を軽減することも必要であると認識しており、御意見を踏まえながら、一人ひとりの生徒に応じた柔軟な対応を可能とする教育内容のあり方について更なる検討を進めてまいります。</p> <p>学び直しの取組や「困り」を抱えた生徒への教育のあり方についても御意見を参考にさせていただきながら、教育内容の具体化を進めてまいります。</p>
学び直しの最終目的を明確にすることが必要。また、義務教育における学習内容を学ぶのか、高校を卒業する程度の力を育むのか、学習内容についても知りたい。 加えて、学び直した後の進路・支援についても具体的に知りたい。	2	
学習面だけでなく、集団行動や社会生活、ソーシャルスキル、コミュニケーション力などを学ぶことで、社会に送り出すことができれば良いと思う。	3	
部活動や行事は、先輩や他校の生徒と交流する大事な機会なので力を入れてほしい。	10	
集団生活を通して学ぶことは得るものが多く、とても有意義。但し、いきなり集団に入ることが難しい生徒もいるので、集団生活に慣れるまで、柔軟なケアが必要。	1	
集団の中で過ごすことが難しい生徒が一定数存在する中で、行事を学校全体で実施するリスク、難しさをどこまで想定されているのか。規模の大きな行事への参加は、生徒にとって心理的な負担が大きくなる可能性があり、教員の負担も増えることが予想される。仮に一体感を持つことを目標にするとしても、全校規模ではなく、20～30名程度のクラス規模で検討すべきではないか。	1	
学力の低い生徒に対しては学びを一から行う場として、学力が高いが家庭の事情で昼間に働く生徒に対しては夜間高度な学習支援を行う場として機能してほしい。	1	
既存の定時制高校も中退者は一定数存在すると考える。学び直しの課題を明確にしておかなければ、新設をしても同じような課題が生じるのではないか。	1	
普通の学校で、普通に学べればそれで良い。	1	
教員主導の制度設計でなく、「困り」を抱えた生徒のために議論が進められることを切に希望する。	1	

3 求める生徒像・育てる生徒像（10件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
「誰でも入れる・受け入れる」学校ではなく、「求める生徒像」と「育てる生徒像」で明示されているような生徒に照準を合わせてほしい。社会的自立を目指す生徒像に賛成。	2	<p>「求める生徒像」については、生徒本人が学習意欲を有していることを前提に、多様な生徒の状況やニーズを踏まえ、新定時制単独高校を求める生徒の共通する姿を端的に表すものとして設定したものです。</p> <p>また、「育てる生徒像」についても同様の観点から、基礎的な学力を身に付けることはもとより、自己肯定感や自己有用感とともに、社会性や主体性を育み、高めることが必要との認識の下で設定しております。</p> <p>今後とも、本「まとめ（案）」に記載された内容を軸に、学校生活を通して社会的自立の基礎を築き、進路希望の実現を図ることができるよう、検討を進めてまいります。</p>
「求める生徒像」に「教育相談を一定期間継続している生徒」などの判断基準を取り入れてはどうか。支援学校とはニーズが異なるが、一定の支援が必要な生徒を受け入れる高校であることを明示すべき。 また、「様々な困りを抱え…」について、生徒本人や家族が不登校支援や特別支援を必要としていることを明確にするため、「生徒やその家族が本人の困りを認識しており…」との表現が適切ではないか。 さらに、夜間定時制については、「経済的な理由などで、働きながら学びたいという明確な意思を持つ生徒」との要件を入れるべきだと思う。	1	
「育てる生徒像」内に「主体的に行動できる生徒」との記載があるが、障害特性のある生徒の場合、一定の支援が前提となる。「支援を受けながらも主体的に行動できる生徒」とすべきではないか。 また、「学校生活を通して社会的自立の基礎を築き」の記載について、学校実習と企業での長期職場実習を組み合わせた「デュアルシステム」や自己有用感を育む地域と協働した取組なども検討いただきたい。	1	
「社会の一員として」の「社会」とはどういう社会だろうか。不登校で引きこもりでもインターネット上の高校で学び、ネットで繋がりながら生き生きと生活されている方もおられる。多様な生き方を許容できる社会でありたい。	1	
受検、就職に対して、生徒間の意識の差が大きいのではと心配。	1	
「求める生徒像」とするよりも、「求められる学校像・目指す学校像」など、高校側がどのような学校でどのような目標を掲げているのかを明確に示す必要があるのではないか。	4	

4 学年制・単位制，学期制及び修業年限（14件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
学年制や3学期制の点からも，独り立ちが難しい生徒を想定した手厚い教育環境の実現を目指して検討されていると思う。	1	<p>新定時制単独高校では，生徒が進級を意識しやすく，段階に応じて学びを進めることができる学年制を軸に，柔軟な科目選択や単位取得を可能とする単位制の特徴を取り入れ，多様なニーズに対応してまいります。</p> <p>また，生徒が学習意欲を高める上では，次の学習へのステップを計画的に設定して学習を行うことが効果的と考えられることから，より短い期間での学習指導・評価を行うことができ，生徒・保護者が課題を認識する機会が増えるなどのメリットがある3学期制を軸にした教育課程の検討を行うこととしており，御意見にあるように独り立ちが難しい生徒を想定した手厚い教育環境の実現を目指し，引き続き，その具体化を図ってまいります。</p> <p>新定時制単独高校では，3年間で卒業が可能となる3年制のメリットや，ゆっくりと自分のペースで学ぶことのできる4年制のメリットを踏まえ，生徒の希望によって合格後に修業年限を選択できることを基本とした制度設計を検討することとしております。引き続き，「引きこもり傾向」にある生徒への対応をはじめ，多様なニーズに柔軟に対応できるよう，学校体制も含めて更なる具体化を図ってまいります。</p>
学年制は賛成。単位制が流行っているようだが，大学生のように自立した活動ができるとは限らない。ほとんどの中学生が高校へ進学する中，一部の生徒に適した制度は教育の放棄だと思う。	1	
単位制を一部取り入れることで，生徒が中退しても高卒認定試験の一部免除を可能としたり，生徒希望に応じて選択科目を履修できるようにしてほしい。	1	
3学期制は賛成。	1	
3年で卒業できる点は，生徒の進路選択・進路実現の幅が広がることになり，積極的かつ前向きに進めてもらいたい。	3	
3年制，4年制と自らに合ったライフスタイルで学び直し，卒業を目指せる点はとても良い。全日制と同じ内容を学び，進学を目指せる可能性もある。但し，「引きこもり傾向」にある生徒には，いずれも効果が薄いと考える。	2	
修業年限の希望が偏った場合，クラス編成ができるのか。3年制を基本とし，昼間部・夜間部の多部制はやめる。	1	
毎日学校に来ることが厳しい生徒もいるため，週3～4日の通学で，かつ3～4年の修業年限で卒業できる教育課程を検討できないか。	1	
3年制・4年制を選択可能とするのは，学校を運営する上で時間の確保等で困難が生じるため，4年制を基本とすべき。	3	

5 授業時間帯（51件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
集団生活の中で人間性や社会性を育むことは重要。そのため，可能な限り，昼間部・夜間部で共通の授業時間帯を設け，様々な人と交流することは，多くの生徒にとって学び直しにつながり有意義と考える。	3	<p>新定時制単独高校では，昼間部と夜間部の生徒が集団の中で交流・人間関係を構築し，社会性を身に付けることとともに，一体感を持って学校生活を送ることができるよう，可能な限り，共通の時間帯に学ぶことのできる時間を確保することを前提に，本「まとめ（案）」のとおり授業時間帯・勤務時間を例示しております。</p> <p>また，生徒が学校生活を送る中で様々な理由から昼間部・夜間部の変更を希望することも想定されるため，配慮の必要な事情がある場合に限り，一定の条件の下，変更を認めることとしております。</p>
定時制でも，多くの生徒が通う昼間の時間帯が良い。登校時間を選択できる点や夜間の始業時間も良いと思う。	5	
昼間部と夜間部を設けるのは，様々なニーズに応えるとともに，役割も異なり良いと思う。	5	
昼間部の生徒が夜間部の授業も受けることを可能にすれば，より幅が広がると思った。	1	
昼間部から夜間部の変更を可能とするなど，柔軟な対応をお願いしたい。	3	
昼間部，夜間部の生徒が共通の時間帯に学ぶことは基本的に難しいと思う。夜間通学する生徒はそれぞれの事情があり，昼間働く必要のある生徒も少なくない。昼間部の授業開始時間が中途半端のような気がする。	3	

5 授業時間帯（続き）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
朝から学ぶことを希望する生徒もいる。そうした学習意欲を持つ生徒のためにも、定時制単独高校のメリットを生かし、午前中の時間帯を活用した補習などを検討してはどうか。日中に教育活動を行うほうが有効であり、ニーズも高いと思われる。	7	午前中の時間帯を活用すべきとの御意見を踏まえ、全日制と併設していない定時制単独高校という施設利用のメリットを生かした午前中の活用のあり方についても検討を進めてまいります。
生徒の生活リズムに適した時間帯で授業展開を。午後からの始業だと、生活リズムを立て直そうと頑張ってきた生徒が規則正しい生活を継続できる環境といえない。午前中の授業が理想だが、難しいようであれば、自主学習や自主活動の時間として活用を検討してもらいたい。	5	
始業が遅いと思う。午前中から始めてほしい。また、夜間についても、働きながら学ぶ生徒と決めつけずに、昼過ぎや夕方前から教育活動を行ってほしい。	1	
打ち合わせや事例検討の時間が設定されていることは大事。個別の指導計画も大事だが、日々の記録を残し共有することも大事である。	1	授業時間帯・勤務時間の例示については、一人ひとりの生徒に対してきめ細かく支援することに加えて、生徒が集団の中で幅広い体験をすることで育まれる社会性を大切にすることを念頭に置き、昼間部と夜間部の生徒が可能な限り、共通の時間帯に学ぶことのできる時間を確保することを前提に設定したものです。 今後とも御意見を参考に、会議や部活動の優先度、アルバイトの時間などを考慮し、具体的な授業時間帯を検討してまいります。
給食時間は2回も不要。 また、20分間の給食時間では短いと思う。1回あたりの時間を長く設定してほしい。	6	
職員会議の時間と給食の時間が短い。部活動や生徒会活動、補習時間の確保。授業は午前より始める。	2	
学び直しの内容は生徒によって希望が異なることから、個々に応じた授業時間帯の検討をお願いしたい。	1	
アルバイトを希望する生徒が入学しても対応可能なので良いと思った。	2	
例示されている授業時間帯は過密すぎる。早朝や昼にアルバイトをする生徒に対応した時間帯とすべき。	1	
休み時間を長くしてほしい。	1	
14時頃から20時頃に授業を行う「3卒制昼夜間部」のみ設置する。その上で、生徒の事情や希望に応じて、選択科目のような対応で学ぶ時間帯・修業年限を決める。生徒集団の基礎単位であるホームルームを基本とした人間関係の確立を重視する。	1	
始業時間を2つ設けている理由が分からない。統一したほうが良いと思う。	2	
現在の西京高校のような登校時間が良いと思う。	1	

6 学科、教育課程、資格取得等（22件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
普通科の中で専門性の高い内容を単位取得できるなど、幅広い科目を履修できるよう、柔軟な対応を検討してほしい。	3	新定時制単独高校では「基本構想」を踏まえ、生徒の多様な進路希望に応えるため、設置学科を普通科としております。その上で、多面的・多角的な物の見方や論理的な考え方、コミュニケーション力を身に付け、課題解決力や職業観・倫理観を養うことを狙いとした専門的な科目の設置も検討することとしております。 引き続き、教科・科目等の検討を進め、教育活動の一層の具体化を図ってまいります。
社会人として活躍できる能力や社会性を育む教育課程編成を望む。	1	
生徒に選んでいただく、といった視点が必要ではないか。同時に、生徒自身が得意な面を見つけ、それを伸ばしていくような視点から多彩な教育内容・カリキュラムの検討が必要。	1	
ものづくりができるレーザーカッターや3Dプリンターなどの装置を備えたファブラボを開設してはどうか。また、社会生活を送る上で必要な力や技術を身に付けるため、ものづくりによる「卒業制作」や体験学習を学校設定科目で導入するなど、工業学科で実施している内容を残しても良いのではないかと。	7	
小・中・高の学習内容を相互に連携させたカリキュラムがあれば良いと思う。	1	
修業年限に関係なく、自らのペースで自学自習をサポートし、進級テスト方式で卒業を目指すことができれば意欲を持って学業に臨めると思う。	1	

6 学科, 教育課程, 資格取得等 (続き)

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
学校で取得した資格が役に立ったのもっと開講してほしい。資格をたくさん取得できれば良いと思う。 卒業後, 社会生活を送るために必要な資格を検討いただくとともに, 京都ならではの伝統文化に関連したもの, 製菓などの調理系, ゲームやアニメなどのIT情報系も検討いただきたい。	6	資格取得については, 学びの動機付けや自尊感情を持たせることを目的としております。具体的な資格の種類については, 社会生活を送る上で必要となる基礎的な知識や技術を身に付けることができる資格などの中から, 日々の教育活動で取得可能なものを設定することとしており, 引き続き, その教育効果も視野に入れながら議論を深めてまいります。
就職につながる資格とは, 具体的にどのようなものか。	1	
高等学校卒業程度認定試験を取り入れ, 積極的に受験させるような体制にしてほしい。	1	

7 クラス人数, 講座人数 (11件)

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
学級規模の基本を20名とする少人数教育に大賛成。「まとめ(案)」にある学校を実現してほしい。	3	新定時制単独高校には, 基礎的な学力の定着が不十分な生徒が入学してくることも想定されることから, 一人ひとりの生徒に目が行き届いた指導がより可能となる少人数教育や, クラス内の学力差に対応するための習熟度別講座を展開することが必要と考えております。 今後は, 本「まとめ(案)」のとおり, 一クラスあたりの人数については20名を基本とし, 特に積み上げの必要な教科については, 必要に応じて10名程度の習熟度別講座とするなど, きめ細かい指導体制の確立を目指してまいります。
教育活動を実施するには一定数の集団である必要があり, 人が集まることで競い合いや教え合いが生まれる。そのため, 昼間部と夜間部に分ける際も一定の人数は確保すべき。	1	
少人数ならば授業に参加できる意欲や能力があるものの, 20名規模のクラスでは適応できない生徒が排除されないかと危惧する。 また, 集団生活に適応する能力と, 社会的・経済的自立に因果関係はなく, 適切な職業選択により自立することは可能と思うので, 将来的に誰もが大きな集団に属することが必須との考え方は違和感を覚える。	1	
クラスの人数が多すぎると, 人間関係から生徒が通いにくくなったり, 一人ひとりのニーズに対応することが難しくなるので避けるべき。	3	
2・3年次は一クラスの人数を統一したほうが良い。	1	
不登校や対人関係に課題のある生徒のクラスと, 過去に反社会的な行動で課題があり, 学業が続かなかった生徒のリベンジクラスを作ったらどうか。	1	
どの科目も講座は10名までが望ましい。実習は3~4人程度が望ましい。	1	

8 「引きこもり傾向」にある生徒への対応等（17件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
特に期待するのは通信教育等を利用した「引きこもり傾向」にある生徒への支援。「まとめ（案）」のとおり、単なる通信制課程に留まらない新たな制度を創設してほしい。	1	<p>公立高校として、学習意欲がありながらも登校できない「引きこもり傾向」にある生徒に対し、ICT環境を利用した学習支援を行うことは、多様なニーズに応えると同時に、一人ひとりの特性や個性に応じたきめ細かい指導や支援を実現するものであると考えております。</p> <p>今後は、御意見にもありますように、定時制課程内で通信教育や多様なメディアを高度に利用した制度を活用することも視野に入れ、「引きこもり傾向」からの脱却と「最終的に定時制で卒業すること」を前提とした教育システムの実現を目指し、文部科学省とも協議を行います。</p> <p>「引きこもり傾向」にある生徒への効果的な学習支援の方法について、御意見を参考にさせていただきながら、検討を進めさせていただきます。</p>
公立高校が「引きこもり傾向」にある生徒の教育保障を行うことは画期的。経済的負担が低い公立高校で、ICT環境を活用したオンデマンド型の授業を行い、「学校に行きたい」というモチベーションを高め、登校意欲を刺激するような教育システムを求める生徒・保護者のニーズに応じてほしい。	4	
引きこもりからの脱却に向けた具体的な検討をお願いしたい。内容をさらに詳しく知りたい。	1	
教室外で通信教育を利用して登校を促すという発想は、不登校生徒への新たな支援策であり、再チャレンジの学校となることを大いに期待する。 但し、定時制・通信制課程を併置して、そうした支援や学校運営を行うことは非常に難しいと思う。公立なので、多様な生徒に焦点を当て、定時制課程で支援してほしい。通信制課程は私立を含め他校にもあるため不要。	4	
学習に遅れの目立つ生徒の場合、通信制では添削の意味を十分理解できないなど学習指導が上手く伝わらないことも多い。そうした、通信制や全日制で学び直しが難しい生徒には、「『引きこもり傾向』からの脱却」「学び直し」に重点を置いた定時制高校は意義があると思う。	1	
多様なメディアを利用した通信教育を自宅だけでなく、学校の自習室のような開放された場でも行われることを望む。また、昼間、夜間のほか、休日、平日の午前も自習室や図書室を開放することで、「引きこもり傾向」にある生徒が外出し、社会とのつながりやカウンセリングの機会を持つことができるのではないかと。	1	
中学校教育の中で、不登校や引きこもり生徒への対応は難しい面がある。そうした生徒にきめ細かいケアを行うとともに、学校に居場所のある環境作りを期待する。	2	
「引きこもり傾向」にある生徒や不登校生徒は、学校へ通うこと、集団に入ること、この二つを苦手としているので、一学期は少人数学級で学習し、二学期もしくは二年生からは20名の学級規模で学校生活を送るといった段階的な対応も考えられるのではないかと。	1	
高校は義務教育でないため、「引きこもり傾向」にある生徒の対応に公教育がどこまで力を注ぐ必要があるのか分からない。手を尽くせば尽くすほど、どのように支援すべきかが課題になると思う。	1	
「引きこもり傾向」にある生徒が通学する際、送迎バスを運行してはどうか。	1	

9 休学・中途退学者に対する学び直しの場の提供（5件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
中途退学者等に対する学び直しの場の提供について、可能な限り、柔軟な対応をお願いしたい。また、年度途中の入学についても諸条件の緩和や面接時のカウンセリングなど、丁寧な対応をお願いしたい。	1	年度途中から受け入れた生徒がスムーズに学校生活を送ることができるよう、生徒本人の意思確認や学習内容の引継をはじめ、丁寧かつ柔軟な対応をお願いしたいとの御意見を参考に、引き続き、教育相談の充実、保護者との密接な連携や学習の接続など、様々な観点から検討を進めてまいります。
年度途中からの生徒受入は、生徒がいち早くスタートを切る機会になると思う。	1	
年度途中の入学は、慎重にする必要がある。随時よりも、学期に1回など定期的に機会を設けるほうが良い。時間をかけての相談や体験を通じ、本人の意思を確認することが必要。	1	
年度途中から受け入れた生徒が混乱しないよう、教科書や学習進度について前籍校との引継をお願いしたい。	1	
単位の切り売りとならないように、多角的な視点からの検討が望まれる。	1	

10 指導及び支援体制（31件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
教員だけの力では到底できない。「困り」を抱えた生徒に対応できるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの常駐をはじめ、キャリアアドバイザーや特別支援教育の専門家などを配置し、十分連携することが必要。同時に、児童福祉センターなど、学校外の専門機関との連携も目指すべき。卒業後の進路も含めて、きめ細かく対応できる支援体制を構築してほしい。 また、それらをコーディネートする力も必要となる。現在、学校では養護教諭がその役割を担っていることが多いと思うが、今後そうしたコーディネート力の育成が重要。	15	一人ひとりの生徒と向き合うことが一層求められる新定時制単独高校では、新校の教育理念を理解し、情熱と意欲を持って取り組むことのできる教職員をはじめ、専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、総合育成支援教育に関するアドバイザー、キャリアアドバイザーなどを配置するとともに、関係機関と緊密な連携を図ることが重要であると認識しております。 引き続き、よりきめ細かい指導と支援体制を確立できるよう、各分野の専門家と協働し、一人ひとりの生徒のニーズに応じた対応を可能とする校内体制作りの実現を目指してまいります。
様々な「困り」を抱える生徒の支援は今後さらに重要になってくると思う。個々に応じた支援を本当に必要としている生徒のために、学習の場を設けることが大切。	3	新定時制単独高校が、一人ひとりの生徒に対してきめ細かい指導及び支援体制を実現するためには、御意見にあるような「個別の指導計画」の活用をはじめ、生徒の個別支援や指導方法のあり方について、継続的な研究・検討が必要であると認識しております。 幅広い観点からの御意見を参考に、全国的な動向も注視しながら、支援の必要な生徒に対する取組を充実させてまいります。
「個別の指導計画（支援計画）」に関する記載がない。活用することを前提としているため記載がないと思われるが、1限目に想定している教職員の打合せ・会議等の時間を有効活用するためにも必要と考える。	1	
保健室などの教室以外で授業を受ける生徒が増加しているが、現在、そうした生徒は単位認定がされない状況。 学習意欲を持っているが教室に入ることができない生徒も単位認定を行い、自らのペースで学習できる学校にしてほしい。	3	
発達障害や心身状態等が原因で、数名程度の規模でないと学習できない生徒もいる。そうした生徒のため、新定時制単独高校では分教室、あるいは個別指導室を設け、少人数教育を実施いただきたい。 西京高校を新定時制単独高校の分教室にするか、市内全域に「ふれあいの杜」のような不登校支援教室を作ってください。	2	
不登校を経験した生徒は、支援の必要な生徒が多いと思う。そのため、支援体制の確立が何より重要。 小中学校では通級指導教室の設置が増えているが、新定時制単独高校にも必要ではないか。	1	
様々な事情で勉強できなかった生徒にこのような機会を与えることは重要。但し、保護者の理解が不足していれば、このような機会も生きないと思う。	1	
生活面も評価してほしい。たばこの指導を徹底してほしい。	5	

1 1 外部機関や中学校との連携、公立高校入学者選抜等（37件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
<p>キャリア教育の視点からも、京都の企業や「大学コンソーシアム京都」のような外部機関と連携し、教育課程内外で、社会の一員として自己有用感を持つような取組が必要。また、高校や大学と連携し、工業系・芸術系など、専門性のある体験学習を行ってはどうか。</p>	6	<p>教育課程内外で社会の一員として自己有用感を持つことのできる取組や、社会で働くことの意味を実体験として学ぶことのできる取組が重要との御意見を踏まえ、新定時制単独高校では外部機関や企業・大学等との連携をはじめ、生徒の学習意欲を高めるとともに、自らが進路展望を描くことができるような教育活動のあり方について検討を進めてまいります。</p>
<p>様々な分野で活躍する定時制の卒業生や著名人による講座や説明会、インターンシップの導入など、外部の教育資源を活用してはどうか。社会で働くことの意味を実体験として学び、モチベーションを高め、将来的に社会で活躍することを実感できる学習内容を取り入れてほしい。</p>	1	
<p>京都市は、洛友中学校や洛風中学校など、不登校生徒の教育に大変熱心なので、新定時制単独高校もそうした学校との連携に期待する。中学校卒業後の進路選択の幅が広がる点でメリットがある。 但し、中学校での課題を高校まで引き延ばすことは懸念。新定時制単独高校で何ができるのかを明確にしてほしい。</p>	3	<p>新定時制単独高校では、不登校を経験した中学生の学びの場である洛風中学校や洛友中学校との連携・接続のほか、入学後の不適応を防ぐための中学校との連携など、これまで以上に中学校現場の理解と協力を得ることが不可欠であると考えております。</p>
<p>「まとめ（案）」にあるように、中学校と高校の連携が必要であり、市立中学校との連携を強く希望する。特に、不登校を経験した生徒の多い中学校と、受検の前段階から連携を図り、市立中学生が多数入学できる市立高校になることを願っている。</p>	3	<p>御意見にありますように、今後は市立中学校との連携のあり方を含め、新定時制単独高校と中学校間でより一層生徒の相互理解・支援を図ることができるよう、検討を進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>選抜方法や定員も可能な限り、学業や友人関係で中途退学した生徒、支援が必要な生徒、「引きこもり傾向」にある生徒の実状を踏まえて検討してほしい。</p>	3	
<p>入学者選抜をどのように実施するかは非常に重要な観点。「求める生徒像」に合致する生徒が入学できないことのないよう、これまででない独自の入学システムを検討してほしい。</p>	6	
<p>中学時代に学習意欲がありながらも、通学できなかった生徒が入学者選抜で不利にならないよう、入学時の本人の「学びたい」という意志や意欲を測り、学ぶ機会を与えてほしい。また、判断基準が明示されることを望む。</p>	3	<p>新定時制単独高校の入学者選抜を実施するにあたり、生徒の「学びたい」という意欲をどのように判断するかは、非常に重要な視点と認識しております。</p>
<p>入学者選抜について、人物を重視する点からも、面接を行っていただきたい。また、学校の取組を理解してもらい、入学後のミスマッチを避けるため、支援学校のオープンキャンパスのように、早期の個別相談や説明会・体験会を繰り返し実施するなど、丁寧に対応してほしい。</p>	4	<p>このため、御意見にありますように、従来の選抜方法の枠を超える新たな方法が必要と考えており、早期の教育相談や進路相談を複数回実施し、生徒の適性を見極める入学者選抜の実施など、「求める生徒像」に掲げる生徒が入学できるよう、中学校とも連携しながら今後更なる検討を進めてまいります。</p>
<p>中学生が高校を選択する際、コンセプトが明確な学校ほど選びやすい。今後、中学校へも積極的にアピールしてほしい。</p>	1	<p>また、新定時制単独高校のコンセプトや教育内容がまとまった段階で学校説明会を開催するなど、様々な機会を通して、中学校現場や生徒・保護者に新定時制単独高校の教育方針を理解いただけるよう、その周知に努めてまいります。</p>
<p>支援学校との区別を明確にすべき。高校は入学者選抜もあるので、誰でも受け入れることはできない。支援学校のように、少人数による特別支援や、個々の生徒の特性に応じた教育環境が整備されるとは思えない。</p>	2	
<p>入学者選抜の際、「発達障害や心理面の不安など特別な支援を必要とする生徒」は多様性の幅が広いので、期待が高まり過ぎないように、誤解の生じないようにすることが肝要である。早期の面談や体験入学を踏まえ、学校方針に生徒本人が納得し、学習意欲のあることが入学基準となる。同時に、小・中学校と連携し、学習進度などを情報共有することが重要。</p>	3	
<p>入学者募集の際、定員や年齢層の間口を広げていただきたい。最近では、高齢者でも学び直しを希望する方が見受けられる。</p>	2	<p>「基本構想」に明記のとおり、募集定員については、両校の募集定員の合計である80名程度を基本に、今後検討を進めてまいります。</p>

1 2 教職員体制（30件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
「教育は人なり」と言われるように、より良い学校は教育内容だけでなく、熱意ある素晴らしい先生が多数配置されている。新定時制単独高校でもそうした実践力や熱意を持った先生が日々きめ細かに対応できる体制の下、生徒のために魅力ある教育環境を実現してほしい。先生が全てだと思ふ。	5	<p>きめ細かな指導及び支援体制の実現に向けて、専門性や豊富な経験のある教職員や熱意と意欲あふれる教職員を配置し、一人ひとりの生徒に向き合うとともに、生徒の多様な状況やニーズにきめ細かく応えられるような人的措置について今後検討を進めてまいります。</p> <p>また、御意見にありますように、新定時制単独高校では、専門的な知識やICT環境を活用した学習支援が求められるとともに、これまで定時制の熱意ある教職員が取り組んできた実践の積み重ねが一層必要となることから、資質の向上や意識改革につながる研修機会の確保など、「困り」を抱えた生徒に対する支援体制を確立できるよう、努めてまいります。</p>
「まとめ（案）」の理念は素晴らしいが、これだけの教育内容を実現するには、何より情熱を持った教員の配置と教員数をしっかり確保することが必須。通常の公立高校の常識に縛られず、若くてやる気のある教員のほか、スクールカウンセラーのような専門性のある人的措置も行い、「この学校があって本当によかった」と実感してもらえらる環境整備と学校づくりを実現してほしい。	3	
この学校の教員は相当な資質と経験が求められる。特にやる気と実行力のある先生や粘り強く丁寧な若手の先生が必要。また、ICT教育に精通した若手の先生も必要だと思ふ。	3	
新定時制単独高校では、これまで定時制の熱意ある先生が取り組んできた実践の積み重ねが一層必要。	1	
生徒にとって、経験ある先生や気軽に相談できる先生がいると、安心して学校に通うことができる。	1	
80名程度の規模ならば、昼間部・夜間部が一体となって教職員全員で学校運営を行い、生徒全員に関わるべき。補習や懇談の時間を確保するために、先生の勤務体制を2部制にすることも検討してはどうか。	3	
教育の充実には先生方に依るところが大きい。中学校や総合支援学校からも、専門性や経験が豊富で生徒に向き合うことのできる先生を配置するとともに、教員研修など先生自身が学ぶことのできる機会を多く設定し、生徒が安心して未来設計できる学校にしてほしい。	2	
「まとめ（案）」のとおり、新定時制単独高校は専門的な知識が必要となる学校。一人ひとりの先生がこれまでの認識を変える必要がある。どのようにして、そうした先生を配置するののかも大切。	2	
「困り」を抱える生徒に対応するには高い資質が求められる。生徒を大切にできる教員の配置が必要。学校として、どのように教員の資質を高めるのかも重要。	4	
検討内容に異論は無いが、構想が壮大すぎて、実現に必要な「専門性や豊富な経験のある教職員の配置」「様々な『困り』を抱えた生徒に対する支援体制の確立」が期待できるのか、と危惧してしまう。全ての生徒に対応するよりも、生徒像を絞り込んで特色として打ち出すほうが良いのではないかと。	1	
教職員の事務負担が増加しないような配慮を。生徒と向き合える時間をできるだけ確保してほしい。	1	
不登校や発達障害に関する専門知識や経験のある先生が望ましい。中学校と人事交流するなど新たな取組も良いと思ふ。一人ひとりのニーズに応える生徒指導、進路指導ができる体制を作してほしい。	2	
定時制の先生は何故、あんなに年齢が高いのか。全日制は若くて経験がある先生が多いと聞いた。定時制の先生も若くて取組に熱心な先生に来てほしい。	2	

1 3 施設設備のあり方（5 2 件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
新定時制単独高校の教育目標に則った活動が十分可能となる施設設備にしてほしい。市民の期待も大きいと思うので、生徒が毎日登校したくなる学校を創設してほしい。	2	新定時制単独高校の教育目標に則った活動が十分可能となる施設設備にしてほしいとの御意見を踏まえ、生徒たちの教育活動をしっかりと保障することのできる、充実した教育環境や施設設備の実現を目指してまいります。
新定時制単独高校の新校舎・敷地等について、今後の具体的な検討内容に合わせて再検討することが必要と考える。	3	
単独校舎を持つ定時制だけの高校は良いと思う。	1	
駅から近く、外灯が多いなど、便利で安全な場所に創設してほしい。	10	
校舎やグラウンド、体育館、テニスコート、防音設備、芸術活動ができる施設の整備。机上の学習とは異なる充実感が得られる体験をより多く経験させてあげたい。	4	
Wi-fi環境の整備。ICT環境を活用した授業用タブレットの導入。電子黒板及びプロジェクターの設置。メディアを利用した授業や自習を個別にできるスペース。	9	
エスカレーターやエレベーター、売店や生徒が集まることのできる食堂、自動販売機等の設置。	19	
二足制の導入。	2	
学校内の安全面も重視してもらいたい。	2	

1 4 両校が培ってきた教育実践等（1 0 件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
西京高校には、先生と生徒の距離が近い、先輩と後輩の仲が良い、保護者と先生が協力して全員で生徒を見守るといったアットホームな環境がある。新定時制単独高校でもこうした良さを失ってほしくない。	2	新定時制単独高校においても、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制がこれまで培ってきた生徒にきめ細かく対応し、保護者と協働することを基盤とした教育実践や機能を継承・発展させることが必要であると認識しております。御意見を参考に、魅力あふれる教育活動の実現に向けて検討を進めてまいります。
保護者として、西京高校は先生と生徒が同じ方向を向いていると思う。こうした環境をなくしてほしくない。	1	
西京高校には、卒業後の進路を相談できる先生がいて、本当に良い学校なので、無くなるのは不安。	6	
新定時制単独高校を創設しないで今のままにしてほしい。	1	

1 5 その他（2 0 件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
全日制よりも定時制のほうが理解されていないと思うので、どのような学校になるかをより周知いただきたい。	1	多様な観点からの御意見を参考にしながら、引き続き、新定時制単独高校の具体化に向けて全力を注いでまいります。
定時制に通う理由は人さまざま。生徒数が減少する中、各校で生徒数の確保が難しいと思われるが、通学時間も考慮した定時制高校の設置をお願いしたい。	1	
美味しい給食が良い。メニューを増やしてほしい。	5	
性同一性障害や、発達障害で制服を着ることに苦痛を感じる生徒がいるため、服装は自由にしていただきたい。	1	
小中学校でも計算力や読解力に明らかに難がある場合は、学び直しの取組を実施すべき。	1	
過年度生が試験までに学習できる場所を作っていただきたい。	1	
税金を使うなら、普通の公立高校にもっと使うべき。	1	
定時制教員の特別な手当を見直して、生徒や教員の数に充てたほうが良いのではないかと。	2	
最後は生徒本人の意志が必要。定時制だけの学校を創っても何も変わらないと思う。	1	
校則無しで自由な学校が良い。	1	
これからのことを考えるより、現在のことを考えるべき。楽しいので見に来てほしい。	3	
車での通学等を可能にしてほしい。	2	